勿凝学問 52

サッチャリズムを手本とする四半世紀遅れの日本と今日のイギリスとの
比較政治経済研究はどうだろうか？
――卒論テーマに悩んでいる３年生へ――

2006 年 12 月 20 日 ver.2
2006 年 11 月 12 日

慶應義塾大学　商学部
教授　権丈善一

男もすなる日記というものを、女もして・・・、もとい、
政治家もすなるキャンペーンというものを、いち大学人もしてみんとてするなり。

先日、地域医療研究会というところで「小さすぎる政府の医療政策」という演題で講演した（チラシ）。その冒頭は、次の言葉である。

> 医療をどうしても変えたいのであれば、雨が降ろうが槍が降ろうが、はたまた空からテポドンが降ってこようが、今日の医療崩壊に手を打とうとしない政党には拒否権を発動するしか方法はありません[1]。今展開されているのは、教育改革と社会保険庁解体

---

[1] 勿凝学問 52 が生まれる経緯を記しておく。

次のメールを、年金局に送る。

> ----------
> さて、お仕事の件。
> もし下記のお願いをご承諾いただければ、前向きに考えてみてもいいかなと思うようになりました。お願いとは・・・。
>
> 次の文章を、脚注として、勿凝学問 52 に挿入させていただけないでしょうかということです。もしご承諾いただければ、部会のメンバーが全員決まり次第、勿凝学問 52 に脚注を付して更新させていただければと存じます。
>
> 脚注１
> 実は、この雑文勿凝学問 52 は、厚労省から依頼のあった仕事をお断りするために書いたようなものである。先日、厚労省から、大学まで来て仕事の説明をしたいとの連絡があった。年金部会委員への依頼ということは分かったので、来てもらってお断りというのも申し訳ないと思い、こっちから厚労省を訪ねて、一応の説明を伺っ

で、その背後にある組織を抵抗勢力に仕立てあげて来年の参議院選をなんとか乗り切ろうという安っぽい政治戦略のように、わたくしにはみえます。こういう安っぽい戦略に騙されて、来年７月の参議院選で、選挙当日に今日の医療崩壊を認めていない政党に思わず一票を投じないことです。与党であれ野党であれ、長年の医療費抑制のためにいろいろな面でおかしくなっている医療を直視しない政党を、他の理由ででも支持してしまったら、それで終わり。議員さんと握手をしたとか、息子の就職でお世話になったという理由で投票してもダメです。もちろん、お子さんの就職でお世話になるのは構わないと思います、無記名投票ですから（笑)。今日の医療問題に取り組もうとしない政党を選挙で支持をしていては、医療は変わりません。選挙の後に医療がど

たうえで即座に断った。理由は、この雑文に書いているようなことを公言している者が、政府の仕事をするのには無理があると判断したためである。そしてその夜、この雑文、勿凝学問 52 を書いて、「権丈を外してよかったと思える文章とでもいいましょうか？　勿凝学問 52 をさきほど書き上げました」とのメールを出した。

その回答は、次のようなものであった。

> ・・・
> さて、仕事の話です。

> > まずは、権丈を外してよかったと思える文章とでもいいましょうか？
> > 勿凝学問 52 をさきほど書き上げました。

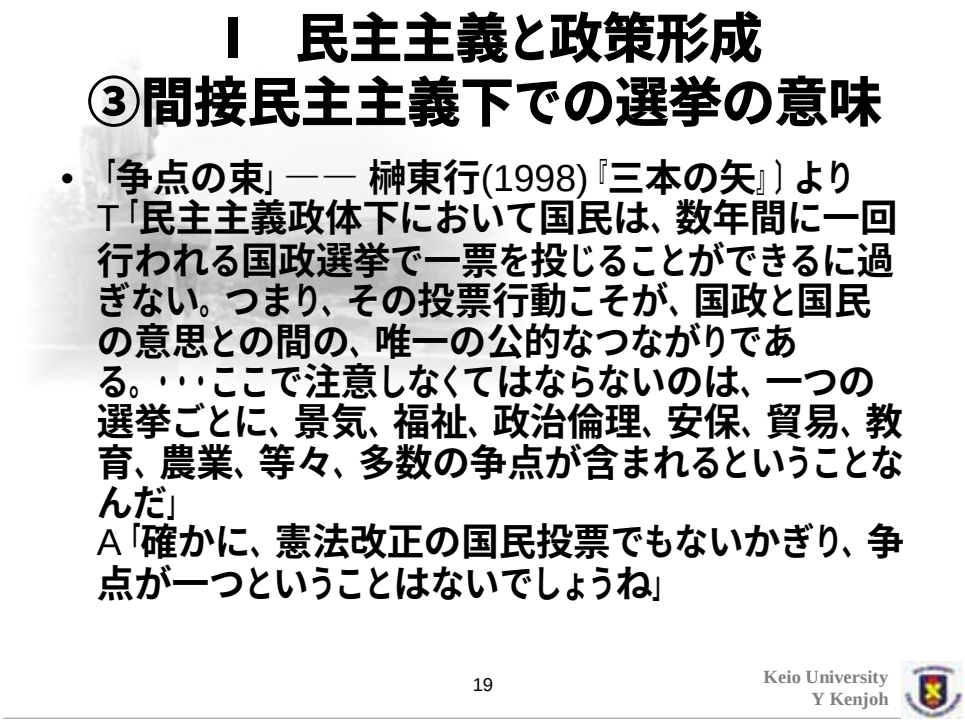
> を拝読し、そのコピーとともに、局長に、金曜日の権丈先生の
> お話を報告したところ、「医療に関しそのようなご批判を展開される方に加わっ
> ていただくことは、当方にとっては何の問題もないので、その理由で
> ご辞退と考えておられるのであれば、ぜひ再考をお願いするように。
> 当然、あくまで本人のご判断なので、ご無理を言ってはいけないが。」
> とのことでした。
>
> 頭の整理としては、この部会は、必ずしも与党に賛成だ反対だとい
> う構図で議論をしていただく場ではなく、年金制度の在り方を議論
> する場ですから、医療の現状に強い異論を持たれ「今日の医療崩壊に
> 手を打とうとしない政党には拒否権を発動するしか方法はありません」
> というご意見を公に表明する方が、年金制度については別途粛々と
> ご議論いただくとしても、何ら矛盾はない、と考えるのですが、
> いかがなものでしょうか。
> ・・・

このメールを受け取り、前向きに考え直すことにした。

上記メールに、「脚注にメールの当該箇所を挿入なさること、了解です」との返事が届く。よって、引き受けた。メンバーも決まり、第 1 回目の部会が 12 月 27 日になるとの連絡も 12 月 19 日に届いたので、勿凝学問 52 に脚注１を付す。

んなに酷い目にあったとしても、後の祭りというのが、間接民主主義というものなのです。

このように話した後、間接民主主義下での選挙の意味を、次のパワーポイントを使って説明した。



- T「要するに、選挙において国民は、それらの争点の束のうち、ほんの一つの争点についてしか判断をくだしえないんだ。･･･国民は選挙において一票しか持っていないから、そのときどきで最も重要だと判断した争点で、自分の考えに一番近い政党あるいは候補者に投票する。たとえば、消費税騒動のとき、安保問題や教育問題などを基準に投票行動を決定した有権者は少なかったと僕は思うよ。要するに、各選挙において、数十ある争点の束のうちの一つにしか、国民は自分の意思を反映させることができないんだ」。 権丈(2006), p.521.

20

Keio University
Y Kenjoh

毎日、新聞を読んでいると、面白いほどに、歳出削減、しかも社会保障、なかでも公的医療費を減らそうと、経済財政諮問会議あたりがなんとも張り切っているのがみえる（笑）。医療費を生産・支出面で減らせば分配面でも減る。ところが、これ以上の医療崩壊を防ぎ、日本の皆保険体制を守るためには、医療への分配を増やさざるを得ない。医療供給への分配を私的医療費で賄おうというのであろうが、そうすると、皆保険、医療の平等消費は壊れ、わが国の医療もアメリカと同じように階層消費の世界へと変わってしまう。この変化を、わたくしは望ましくないと思っている。なぜならば、せめて介護・医療、保育・教育くらいは所得や住んでいる地域にかかわらず利用することができる「平等消費」が実現されるのが望ましく、そのために、これら４つのサービスはできる限り市場に載せない方が望ましいと考えているからである。

ということで、先日、出版社の友だちに、次のように話した。

「来年の５月頃に、『選挙前夜に読む医療問題』という本を出そうと思う。医療とか社会保障の話なんて、投票者はいつも考えたり、勉強したりしなくていいんだよ。投票者の人たちも、みんな忙しいんだから。選挙前夜に、政府の社会保障政策を大いにからかう勿凝学問を収めた『選挙前夜に読む』をながめてもらえば十分。４コマ漫画もつけられたらいいかな。『選挙前夜に読む社会保障』ってのをシリーズ化してもいいと思うんだよね。どう？おっかなくって出版に協力できない（笑）？　政治家が長い期間どんなにお金をかけてキャンペーンを張っても、それを一夜にしてご破算にする作戦を考えているんだからねぇ。

一回じゃ無理でも、繰り返せばいつかなんとかなるさと思ってね。やっぱり、自費出版しかないかっ・・・」。

そんなこんなの背景があるなか、今日は、この場を借りて、ゼミの３年生への特別指導をしてみようと思いついたわけである。今は、三田祭の準備で忙しいだろうけど、その後すぐに卒論テーマを決定しなければならない――はず。

ということで、卒論は次のようなテーマも可なので、ご参考までに。同じテーマを複数のひとが追及するのももちろん可。いつも言っているように、同じテーマであっても同じ研究ルートを辿るはずはないのだから。

参考　卒論のテーマ

イギリス新自由主義の変容と政策選択のコストベネフィット分析

サッチャリズムを手本とする四半世紀遅れの日本と今日のイギリスとの比較研究

研究のとっかかりは、次の３つの記事を読むところからはじめておくれ。

- 「英ブレア後を担うのは…キャメロン氏、有力　保守、労働を上回る　世論調査」『朝日新聞』2006 年 10 月 12 日朝刊９面
- 「英国：保守党、「小さな政府」から転換　減税公約要求を拒否――定期大会」『毎日新聞』2006 年 10 月５日朝刊７面
- 「英政界「ブレア後」へ動く　労働党・ブラウン氏ＶＳ保守党・キャメロン氏」『東京読売新聞』2006 年 10 月５日朝刊６面

『朝日新聞』2006 年 10 月 12 日朝刊９面 「英ブレア後を担うのは…キャメロン氏、有力　保守、労働を上回る　世論調査」
ブレア英首相（５３）が来秋までに辞任する意向を表明したのを受け、保守党のキャメロン党首（４０）を次の首相に推す声が急速に広がっている。最近の複数の世論調査で、最有力後継候補のブラウン財務相（５５）を大きく引き離し、政権交代を射程にとらえた。与党労働党が主導権をめぐり統制が乱れるなか、今月初めに開かれた保守党の年次党大会で、「分別がある中道右派政党」（キャメロン氏）への脱皮を印象づけたことが功を奏したとみられている。（ロンドン＝稲田信司） 「国民保健サービス（ＮＨＳ）の創設は、２０世紀で最も偉大な成果のひとつだ」 党大会の最終日にあたる４日、キャメロン党首は数千人の党員を前に演説し、１９４０年代にアトリー労働党政権下で生まれた公的医療制度を絶賛した。 ８日発表のサンデー・テレグラフ紙の世論調査によると、保守党の支持率は党大会直前と比べ７ポイント伸び、３８％となった。一方、労働党は３ポイント減の３２％で、両党の差は６ポイントに広がった。

また、「次の首相」にキャメロン氏を推したのは４５％で、ブラウン氏の３４％を１１ポイント引き離した。保守党支持者の８３％がキャメロン氏の首相就任を望んでおり、同氏が党内で支持基盤を固めていることをうかがわせた。

１０日付のタイムズ紙の世論調査では、次の総選挙でキャメロン氏が率いる保守党とブラウン氏を党首とする労働党で比べた場合、保守党が労働党を８ポイント上回る４２％の支持率を獲得、政権交代が可能な領域に入ることになることがわかった。また、指導者の「カリスマ性」については、キャメロン氏が４８％で、ブラウン氏の２３％の倍以上を獲得した。

キャメロン氏は今後の政策づくりの流れを決める党大会で、守旧派が求める大幅な減税要求をはねのけ[2]、経済の安定を最優先課題に位置づけるのに成功した。

また、イングランド銀行（中央銀行）の独立をはじめ、最低賃金の保障や同性愛者の結婚などブレア政権下で実現した政策を引き継ぐ意向を示した。

『毎日新聞』2006 年 10 月５日朝刊７面

「英国：保守党、「小さな政府」から転換　減税公約要求を拒否――定期大会」

【ロンドン小松浩】英国最大野党・保守党のキャメロン党首（３９）は４日の定期党大会演説で、（１）減税より経済の安定を優先する（２）ＮＨＳ（国民健康保険制度）予算は削減しない――などの基本方針を示した。「小さな政府」「減税」の保守党という古いイメージを変えることで、０９年に想定される次期総選挙で４期ぶりの政権奪還を目指す姿勢を明確にした。

英政治はポスト・ブレアの労働党と「新生・保守党」の対決構図で動いていくことになる。

キャメロン党首は英南部ボーンマスで開催された党大会最終日に演説。脳性まひの長男（３）を引き合いに「私の家族もＮＨＳの世話になった。ＮＨＳは英社会の連帯の象徴だ」と述べ、公共サービス削減を柱としてきた従来路線と距離を置く姿勢を明確にした。

また右派から高まる減税公約要求を「空手形は切らない」と拒否。「我々は昔の保守党には戻らない」とも語った。

同党は昨年１２月、キャメロン党首とオズボーン影の財務相（３５）の「３０代コンビ」に復活をかけた。新体制は地球環境重視や女性の社会登用など、新たなビジョンを打ち出してきた。最近の世論調査では、ブレア後継が有力のブラウン財務相よりキャメロン党首が「いい首相になる」と回答した人が５４％。ブラウン氏の４１％を上回った。だが、急速な旧保守党色の一掃は、伝統的支持層の反発や抵抗を招く恐れもある。

『東京読売新聞』2006 年 10 月５日朝刊６面

[2] ちなみに、国民負担率は、日本 37.7%(2006 年)、英国 47.1%(2003 年)、潜在的国民負担率は、日本 43.8%(2006 年)、英国 51.3%(2003 年)。

「英政界「ブレア後」へ動く　労働党・ブラウン氏ＶＳ保守党・キャメロン氏」
大会が４日閉幕した。９～１０月に開催された英主要政党の党大会を通じて、「ブレア後」に向かって動き出した英政界は、労働党のゴードン・ブラウン財務相（５５）と、保守党のデビッド・キャメロン党首（３９）との対決構図が鮮明になった。 ２００９年に予想される総選挙での政権奪還を目指すキャメロン氏は大会期間中、「変革」を繰り返し訴えた。経済界寄りという旧来の保守党のイメージを打ち破るように、４日の演説では「気候変動への対応は我々の社会的責任」と環境保護を強調。さらに、赤字経営が続く国民医療サービス改革を「優先課題だ」とするなど、労働党が得意としてきた福祉政策に取り組む姿勢も明確にした。一方で、伝統的な党の基本政策だった減税については「守れない約束をすることは出来ない」と言明した。 キャメロン氏はまた、ブラウン氏による予算の無駄遣いを批判、同氏とブレア首相のあつれきを皮肉るなど、ブラウン氏への強烈な対抗意識もむき出しにした。キャメロン氏は「右派政党の中道路線」を標榜（ひょうぼう）。党首側近の国会議員は本紙に「広範な支持獲得に向けた党の戦略転換」と語った。 英政界では、ブレア首相が左派・労働党の中道化を進めて総選挙３連勝を果たし、今度は、キャメロン氏が保守党の中道化に向けてかじを切ったため、２大政党の政策的な隔たりは不明確となった。 しかし、保守党の場合、サッチャー元首相を熱烈に支持する古参党員がいまだに多く、減税政策を明確に打ち出さないことが、「小さい政府」を掲げた「サッチャー主義」への反旗と映る。キャメロン氏はこうした反発を抑えつつ、「変革」を肉付けする具体的な政策を提示しなければならない。 一方、労働党のブラウン氏も、９月末の党大会でブレア首相辞任後の党首選への意欲を表明した際、キャメロン氏を名指しして、総選挙での対決を予告した。 だが、同党も政策面で火種を抱える。ブレア首相は、教育、医療の分野でも、競争原理の導入を推進してきたが、党の有力な支持基盤である労働組合などは反発。ブレア路線の継承を掲げるブラウン氏への風当たりが強まる可能性がある。 ◆第３党と連立？ また、第３政党・自由民主党のキャンベル党首は９月の党大会で、「我々は政権を担う党になる」と主張した。キャメロン氏の登場後、労働、保守両党の支持率は拮抗（きっこう）しており、総選挙で両党いずれもが過半数の議席を確保できない場合を想定、連立パートナーとなる意欲を示した。

さてさて、君ら３年生の大いなる健闘を祈る。